

発表内容梗概

琉球国と東アジア交流
～琉球史から沖縄の経済的自立を考える～

2015 インターゼミ
アジアダイナミズム班

1. 本研究の目的・背景

王国として長い期間にわたり存続した琉球国は日本と中国、そして米国の狭間で、どのような立ち回りを見せたのか。

「東アジアにおける沖縄の存在」ということは、琉球が中国に恭順した時代、薩摩侵入の時代、戦後のアメリカ統治の時代という、日米中3か国に支配されるなかでの「琉球の歴史性」とともに、琉球国としての「国のかたち」（特に地政学的視点での政治体制）、「薩摩口としての琉球交易」「日本人としての琉球人」について、江戸期を中心に深堀し、歴史の教訓と現在への示唆を読み取る題材として最適であると考えます。

これらの歴史的背景から現在の沖縄にも目を向け、歴史は何を示唆しているのかを探る。

「ファジーに生き抜く知恵を蓄積してきた沖縄、歴史の渦に巻き込まれているようで、実はそれを切り返す逞しさを内在させる沖縄」（寺島実郎学長）といった沖縄人の精神性とはどのようなものなのか。また、「沖縄独立論」が出る背景や、独自の文化・歴史に誇りを持つ蓬莱の島・琉球国において、近世・近代の350年を中心とした長い射程距離で、沖縄の歴史を振り返り、「沖縄のあるべき姿」を問い、沖縄の自立自尊及び経済的自立を踏まえた未来を考える。

2. 研究方法

・文献調査

先行研究を基盤に一次資料、二次資料による分析を行う。

・フィールドワーク調査

沖縄県にて現地での調査を行う。サービスエンターテインメント班との合同調査を予定している。

・アンケート調査

老若男女問わず沖縄と本土にて既存の先行調査結果も活用し意識調査を行う。